



町制施行50年／河津町勢要覧

河津、咲く。

KAWAZU
2008



河津町は、本年でめでたく町制施行五十周年を迎えることができました。

先人たちが築き上げてきたこの町も、五十年という歳月の中で、幾多の苦難を乗り越えながら、海・山・川・温泉の豊かな自然資源に恵まれ、加えて四季折々に彩をなす「花咲く町」として全国的にも知られ、発展をしてまいりました。

半世紀という新たな節目を迎え、河津町はこの町に暮らす人が「安全で幸せな」町へ。

この町に訪れる人が第二の「ふるさと」として、心を癒される町へ。

先人たちより受け継いだ豊かな自然と文化を大切にしながら、町民との協働により魅力あるまちづくりの実現に向けて取り組んで参りたいと考えております。

この町勢要覧をご覧いただき、河津町の発展の助けになれば幸いに存じます。

平成二十年九月

河津町長 櫻井恭次



A Message from the Town Mayor

This year Kawazu Town happily marked the 50th anniversary of its organization as a town.

This town that was built up by our forefathers has overcome numerous hardships over the span of 50 years, and, blessed with abundant natural resources from the ocean, mountains, rivers, and hot springs, it has become known throughout Japan as a “town in bloom” that is suffused with the colors of each of the four seasons, and has continued to develop.

Upon reaching this new turning point after half a century, Kawazu Town is striving to be a “safe and happy” town for the people that live here, and a town that soothes the soul as a second “hometown” for people that visit us.

We will work to create an appealing town through the cooperation of the townspeople, while cherishing the rich nature and culture that has been handed down to us from our forefathers.

It would be my pleasure if having people view this pamphlet would assist in the development of Kawazu Town.

Taiji Sakurai Mayor

INDEX.

- 2. 町長挨拶
- 4. **50年目の人。**
- 6. **あなたの河津町は？**
- 8. 写真と町史でたどる
河津町の50年。
- 12. **花・泉・山・海**
- 14. ●花園河津
- 16. ●湧泉河津
- 18. ●山海河津
- 20. **文学の散歩道。**
- 24. **河津、咲く。**
ようこそ、河津へ。
- 26. **心癒されるひと時、
河津の新しいスポットから。**
- 28. ●伝統咲き、まつり咲く。
- 30. ●元気咲き、ぬくもり咲く。
- 32. ●暮らし咲き、ふれあい咲く。
- 34. **行政と議会**
- 35. **DATA2008**
- 43. 姉妹都市 **白馬村**

災害時相互応援協定締結都市 **東京都渋谷区**

の50年目

50年前に0歳だった正木町子さん。50年後に50歳になる山田海斗くん。お互い、半世紀を積み重ねた河津町で初めて会った「50年目の人」。同じ河津町で、同じ空の下で、同じ風に吹かれて……。これからたくさんの時間が流れ、さまざまな変化があっても、いつまでもこの町が好きでいる気持ちはずっと同じでしょう。

正木町子さん

河津町創立の年に生まれたので、ご両親から記念に「町子」と名付けられたとか。「名前はあまり意識したことないんですが。ここで生まれ、結婚し、子供や家族と一緒に過ごし、もう50年なんだ。という思いですね。海斗くんをだっこしたら、自分もこんなに小さかったんだって、あらためて感慨が湧いてきました」。

山田海斗くん

谷津で小さな宿をオープンさせた、若い山田ご夫妻に平成20年3月に生まれた海斗くん。海の仕事もするお父さんから「海と斗うくらいの強い男に」と名付けられました。「自然があふれた土地なので、海や野山で自由に遊び、どんなことにも大きな夢を抱いて育てほしい」。ご両親の夢と期待もふくらみます。



「ここは豊かな自然が魅力。父のような農協勤務もいいな（鳥澤さん）。のどかな地元で、ゆっくり暮らすのが自分に合っています（正木さん）。のんびりしているのが好きなので、ずっと河津にいらかな（三澤さん）。河津に残ってお蕎麦屋さんもいいけど、進学も思案中（進士さん）。」

下田高校サッカー部 手前から
鳥澤一磨さん 正木俊平さん
三澤恒樹さん 進士裕太さん



「河津は海も山も川も近くて、どこかしこも素敵。私はここで生まれ、ここで仕事できて、ほんとに幸せです。私の父は、河津町長を経験しています。もう50年もやってきた河津町。これからも、たくさんの人に、落ち着いた河津のよさを伝えていくのも、私の役目かなと思っております」

温泉旅館女将
岡 弘子さん



あなたの河津町は？

町制50周年を迎えた河津町。
ここに住む人にとって、仕事は、生活は、趣味は…。
町への思いと共に、その本音トークを。



「うちでは、ざっと数えて15～20万鉢の花を栽培してます。毎日、花の相手でしょ、出かけるのもままならない。でも、たまに消防団の集まりで仲間と会って話します。みんな人柄がいいんで、ホント楽しいですね。子ども達に、この仕事、ウーンどうでしょう。継いでほしい気はありますね」

花（鉢物）栽培
鈴木 博文さん

「町制50周年って、正直知りませんでした。生まれ育って31年、結婚して5年。本当に、のんびりしている所だと思います。河津桜の時期の賑わいにはびっくりですけど…。子ども達も、のんびり健康に育ってほしい。いつまでも子どもにも安全でやさしく、住みやすい町であってほしいと願っています」

会社員
飯田勤さん・未和さん
ご家族



「私は生まれてから、ずっとここ。子どもの頃は、海に行ったり、川で遊んだり…。理容室は、母から継いで私が2代目。お客さんとかかわりも密で、おせっかいなほど人情が厚いところが河津のいい所かな。町制50年、家族のためにも河津が少しずつ暮らしやすくなっていったらうれしいですね」

理容室経営
末永 晴美さん



「河津でぜひ見ていただきたいのは海岸美。四季折々、波の様子も違い、素晴らしいですよ。河津は伝統を大切にする町で、自然も魅力です。でももっと『文化の底上げ』をしていくことも大切な気がします。この店では、地場産品をもっとたくさんの方に広く紹介していきたいと思っています」

みやげもの店経営
朝比奈 富子さん



「河津は観光スポットがいっぱい。マイナスイオンもいっぱい。干物もすごくおいしい！（長崎くん）。僕は少年野球のリーダー。監督からの挨拶をしっかりと指示もみんなに伝えてます（相馬くん）。河津は緑が多い。いつも新鮮な空気が吸えるのがなによりうれしい（岩谷くん）」

河津ジャガーズ少年野球チーム
左から長崎凜太郎くん
相馬季浩くん 岩谷光紘くん

「週に1回、絵本読み聞かせ会を行っています。赤ちゃんから2・3歳まであんなに熱心にお話を聞いてくれるなんて。感激です。お母さんたちの集まりの場になっていたり、絵本の貸し出しが増えたり。みんながこの場を楽しんでいます。この輪をもっともっと広げたいですね」

町職員・図書館員
鈴木 雅孔さん



「ここでの花栽培者は、いろいろ苦労しています。温度管理や咲かせる環境づくりが難しいんですよ。でも、私の栽培した金魚草が幸いにも農林水産大臣賞を受賞しました。うれしいですね。やりがいには充分あるんです。私は次の世代のためにも、新しい技術でまだまだ挑戦していきたいと思っています」

花栽培農家
鈴木 顕一さん



「町の50年、うーん、実感はないけれど、町並みの風景は変わってきましたね。もちろん、人情とか町のいい所は変わってほしくないけど。もっと若い世代がバリバリ活躍してもいいと思うな。その方がなにかにつけて勢いが出るでしょ。自分も若い頃と意識は変わらないけど頑張らなきゃね」

自動車販売・修理
鈴木 孝彦さん



「この茶屋は私の実家。河津でいちばん早く茶屋を開いたのが自慢なんです。若い頃、町の代表としてヨーロッパ視察をさせていただいたのもこの町のおかげ。恩返しといったらオーバーですが、観光客の方や、いろんな人に『もてなす心』を忘れずに、私も町も発展できたらいいですね」

茶屋女将
福司 つや子さん

「私がバスケット部の部長。副部長の佳南とは、毎朝一緒に登校する仲良しです。興味を持って長く楽しくできる仕事をするのが、将来の夢です(植松さん)。高校入試に向けて、勉強も部活も頑張りたい。教師を目指したい。でも夏休みは、海に行っておしゃべりしたい…(大浦さん)。」

河津中女子バスケット部
左から大浦佳南さん
植松みすずさん



「結婚して河津で暮らして25年、早いんですね。河津の最初の印象は「花がいっぱいある所」。今の仕事も毎日花に囲まれて幸せです。そろそろ年頃の娘二人にも町内で結婚して、近くに住んでほしいですね。かわいい孫でもできたら、いっぱい花をみせてあげたくて…」

園芸店従業員
飯田 みどりさん



「ここ河津はほんとに「水と空気」がきれいです。50周年の町には子どもを育てる大きな「木」のような町になってほしいなと思います。これからも、ますます「河津に来てよかったな」とお客様に喜んでいただけるように。「伊豆」のイメージを大切に世界にアピールしたいですね」

温泉旅館女将
野沢 美季さん



「町の創立時はまだほんの子どもだったので覚えてないね。小さな頃は川で泳いだり、海でさざえを捕ったりしたもんです。いまでも鮎釣りが楽しみ。鮎釣りの解禁日には必ず行きますよ。娘達がお家継いでくれて、孫でも産まれたら、『鮎釣り三昧』の老後を河津川とともに送りたいですね。」

魚店主人
坪井 利夫さん



伊豆急行電車開通(昭和36年)



国民宿舎「かわづ」完成(昭和38年)

集中豪雨に見舞われる(昭和51年)



「滝まつり」始まる(昭和48年)



河津中学校校舎完成(昭和55年)



七滝ループ橋開通(昭和56年)



町営温泉集中管理事業開始(平成元年)



湯ヶ野湯坂「ふるさとの坂道」に選定される(平成2年)

【河津町50年の歩み】

西暦1958	昭和33年	上河津村と下河津村が合併し、河津町が誕生。人口1万0454人、世帯数2054戸。
1961	昭和36年	伊豆急行開通。
1963	昭和38年	田中に役場新庁舎が落成。 国民宿舎「かわづ」落成。
1965	昭和40年	「伊豆の踊子」の作者、川端康成氏を迎え湯ヶ野で「伊豆の踊子文学碑」除幕式が行われる。
1966	昭和41年	初景橋竣工。
1967	昭和42年	国道135号線全線開通。総工費約37億7千万円。 広報「かわづ」第1号発行。
1968	昭和43年	河津町章制定。 段間遺跡に新たに住居跡が発見される。
1969	昭和44年	見高パイロット事業が開始。
1970	昭和45年	「新天城トンネル有料道路」開通。 河津八幡神社三番叟が町文化財に指定される。 農業構造改善事業で1億4千万円をかけカーネーション団地「花泉園」が完成。
1971	昭和46年	県営パイロット事業で見高入谷にみかん生産団地が完成。
1972	昭和47年	林道長久保線完成。
1973	昭和48年	「滝祭り」が始まる。
1974	昭和49年	伊豆半島沖地震発生（M6.9 総被害：死者26人、行方不明4人、全壊98戸、半壊118戸）。 大堰浄水場完成。
1975	昭和50年	第1回老人スポーツ大会開催。 町の木に「河津桜」、町の花に「花菖蒲」が制定される。
1976	昭和51年	集中豪雨で町全域に被害。総雨量509ミリ。 湯ヶ野山に環境衛生センター（ごみ処理施設）建設。総工費2億1926万円。
1977	昭和52年	初景滝のほとりに「伊豆の踊子像」完成。 新・館橋完成。総工費1億3200万円。
1978	昭和53年	伊豆大島近海地震発生（M7.0）。七滝でバスが押しつぶされ、見高入谷では山津波が発生、住宅が巻き込まれる。被害は町全域に及ぶ。 「駅前プラザ」オープン。
1979	昭和54年	来の宮橋竣工。 新天城道路鍋矢トンネル・高架橋開通。
1980	昭和55年	西中学校・南中学校統合、河津中学校発足。 河津駅前に曾我兄弟像建立。
1981	昭和56年	七滝ループ橋開通。 天皇陛下が「大噴湯、大そてつ」をご見学。
1982	昭和57年	南小学校新校舎が完成。 白馬村と姉妹都市提携を結ぶ。
1983	昭和58年	西小学校新校舎・体育館が完成。 町制施行25周年、商工会設立20周年を記念し、第1回産業まつりを開催。
1984	昭和59年	白馬村を町民204人が民間大使として訪問。 B&G河津海洋センターがオープン。
1985	昭和60年	第1回町づくり講座始まる。 端戸山テニスコートがオープン。 第1回ミス伊豆の踊り子コンテスト開催。
1986	昭和61年	河津七滝・今井浜海岸「静岡の自然100選」に認定。 町長選挙で櫻井泰次氏初当選。 国道414号（天城路）「日本の路100選」として選定される。
1987	昭和62年	南小学校体育館が完成。 白馬村との姉妹都市提携5周年を記念し、併せて長野オリンピック実現を支援するためのリレーマラソンが行われる。
1988	昭和63年	河津リゾート株式会社創立。 町制施行30周年記念式典を開催。
1989	平成元年	東小学校体育館が完成。 梨本前之川橋竣工。 町営温泉集中管理事業が始まる。
1990	平成2年	用途地域（都市計画）指定される。 湯ヶ野湯坂 ふるさと郷土賞「ふるさとの坂道」に選定される。 踊り子歩道 ふるさと郷土賞「街灯のある街角」に選定される。



旧下河津村役場



天城トンネル開通（昭和45年）



伊豆大島近海地震の爪痕（昭和53年）



第1回ミス伊豆の踊り子コンテスト行われる（昭和60年）



河津七滝「県みずべ100選」に選ばれる(平成4年)



踊り子温泉会館オープン(平成5年)



保健福祉防災センター完成(平成9年)



かわづ花菖蒲園オープン(平成10年)



「河津バガテル公園」が開園(平成13年)



天城山隧道(旧天城トンネル)が国の重要文化財に指定される(平成13年)



河津桜原木を町指定天然記念物に指定(平成17年)



日帰り入浴施設・伊豆見高入谷高原温泉オープン(平成19年)

西暦1991	平成 3年	伊豆南部の集中豪雨により町内各地で約42億円の被害。 温泉集中管理事業が約12億円で完成。 「国民宿舎かわづ」山の露天風呂完成。
1992	平成 4年	「県みずべ100選」に今井浜海岸と河津七滝が選ばれる。 温泉スタンド「ほっとステーション」オープン。 湯ヶ野自主防災会が県自主防災活動推進大会で県知事褒章受賞。
1993	平成 5年	かわづ花の会設立。 踊り子温泉会館落成。開館1カ月で利用者1万6千人を超える。 サンシップ今井浜落成。
1994	平成 6年	国道414号峰山トンネル開通。 高齢者保健福祉計画まとまる。 重度視覚障害者を対象としたガイドヘルパー派遣事業開始。
1995	平成 7年	環境庁調査で今井浜海岸がきれいな海全国ベスト7に選ばれる。 第1回天城峠コンサート開催。 来宮神社祭典で「鳥・酒精進太鼓」初披露。
1996	平成 8年	広報かわづが県コンクールで優秀賞。全国コンクールに出品される。 天皇后両陛下、天城ご視察のため来町される。 宗太郎杉と天城の森が「しずおか水を育む森50選」に選ばれる。
1997	平成 9年	保健福祉防災センター完成。 デイサービス事業開始。 町のインターネットホームページ開設。
1998	平成10年	かわづ花菖蒲園オープン、入園者最終には2万人を超える。 佐ヶ野川親水公園竣工。 第1回健康ふれあいまつり開催。
1999	平成11年	日本さくらの会「百万本植樹運動」で河津桜記念植樹式が行われる。 川端康成生誕百年記念事業。 春ノ蔵公園整備事業着工。
2000	平成12年	「第10回河津桜まつり」に125万人が訪れ伊豆を代表するイベントになり、しずおか観光大賞受賞。 第3次総合計画「自然が映える ほっとなまち河津」策定。 鉢の山316万㎡を自然環境保全と活性化のため取得。
2001	平成13年	きれいな町づくり条例制定 河津バガテル公園が開園。 天城山隧道(旧天城トンネル)が国の重要文化財に指定される。
2002	平成14年	エコリンセンター東河稼動・ごみ分別収集開始。 パリ市と河津バガテル公園友好技術支援協定締結。
2003	平成15年	白馬村姉妹都市提携20周年・白馬村民来町。 待望の図書館を備えた「文化の家」落成。 河津町新庁舎落成。 町制45周年・河津桜生誕50年記念式典。
2004	平成16年	東京都渋谷区と災害時相互応援協定を締結。
2005	平成17年	河津桜原木を町指定天然記念物に指定。 第15回河津桜まつり来遊者が7年連続百万人を超える。 パリ・バガテル公園百周年記念式典で河津バガテル公園の5周年記念花を「クイーンバガテル」と命名、披露。
2006	平成18年	県市町村合併構想で南伊豆地区(下田市・賀茂郡)が合併構想の対象市町となる。 3幼稚園を統合した「町立さくら幼稚園」が開園。 櫻井泰次町長が6期目当選。
2007	平成19年	河津バガテル公園開園6年目で入園者数百万人を超える。 日帰り入浴施設・見高入谷高原温泉オープン。 地方自治法施行60周年記念で河津町が地方自治功労団体で表彰される。



今井浜「県みずべ100選」に選ばれる(平成4年)



今井荘で王将戦行われる(平成6年)



佐ヶ野川親水公園整備される(平成10年)



図書館を備えた「文化の家」落成(平成15年)



河津町の魅力を語る、花・泉・山・海のポイント。
豊かな自然と、ここに暮らす人々が
織り成す「河津らしい」表情をご覧ください。

花

花あふれ、やさしい香りに癒される町、河津町。早春の河津桜を始め、四季折々の花の彩りと甘い香りがあふれています。温暖なこの地ならではの、心やすらぐ花とのふれあい。花咲く町で味わってください。



泉

泉湧き、あたたかな温もりに満ちた町、河津町。ここは7つの風情ある温泉郷を抱える「湯の里」。そして、天城山系からの清らかな水に恵まれた地。じっくりその湯につかれば、心も体もゆったりほぐれます。





海迫り、豊かな恵みが息づく町、河津町。夏は、子どもたちの歓声でにぎわう、波穏やかなその海は、また私たちに豊富な資源をもたらしてくれる母なる海です。そよぐ潮風に吹かれ、その景色に溶け込みませんか。

海



山巡り、美しき自然に抱かれる町、河津町。天城の深い森、ワサビ田、山染める紅葉。山の魅力もこの地の誇りのひとつです。鉢の山セラーピーロードの整備も進み、体験型観光の楽しみもますます広がっています。



腰に剪定鋏を下げた姿は、まるでガンマン。でも二人とも心優しき花と木の守り人。「木は何も言わない。だから木の顔を見て、声を聴き、手をかける」山本さん。「このバラ園と山、一体の風景を見てほしい。訪れたカップルが結婚し、お子様連れでまた訪れてほしい」小川さん。広大な公園の隅々に目を配る、充実した毎日です。

河津バガテル公園の花木を守る

小川 香奈子さん・山本 健生さん

花園河津

山からおりた無数のメジロが、桜の蜜を吸っては、啼く。飯田さん宅の庭先で堂々たる姿を見せる一本の桜。「鳥も町の人、観光の人、この原木を楽しんで」。先代が偶然見つけたこの木の子孫が、いま町に8000本。「こんなにたくさんの人に愛されて、ほんとにありがたいことです」。桜への深い愛情も、咲き誇っています。

河津桜の原木を守る

飯田 典延さんご家族



河津バガテル公園

河津町の小高い丘に5ヘクタールの広大な敷地を擁するバガテル公園。バガテルとは、フランス語で「小さな愛らしいもの」という意味。フランス、パリのバガテル公園の姉妹園として、平成13年に開園しました。

「バレイリーナ」など優雅な名を持つ貴重なバラ約1100種、約6000本を一堂に鑑賞できます。見頃のシーズンは、4月から11月にかけて。高貴な香りで園内が満たされます。また、園内にはマリ・アントワネットゆかりの田舎風レストランや、ベルサイユ宮殿を模した売店などもあり、本場パリの雰囲気を楽しめます。小さなバラや愛らしい景色と

町を彩るのは、花の色。 花を慈しむ心も、いつも満開です。

のふれあいをどうぞお楽しみください。



河津桜の原木

桜は、春の花。ところが、河津桜はまだ冬の1月下旬からつぼみをほころびはじめ、3月初旬まで濃いピンクの花を咲かせます。

河津川沿いの桜並木



昭和30年頃、飯田勝美さんによつて偶然発見された緋寒桜と大島桜の自然交配種が原木。その後、二代目、三代目と有志の手によつて川沿いに植樹がすすみ、いまでは町の人口とほぼ同じ数の桜の木が植えられています。



河津桜まつり



(上) キンギョソウ (下) バラ

河津桜と同じように早咲きで有名なのが、花菖蒲。温泉を利用して、早咲き栽培をすすめたのがその始まり。いまでは町の花に制定され、町営「かわづ花菖蒲園」では5月上旬から色とりどりの優雅な咲き姿をみせてくれます。

温暖な気候を生かした、河津町の花き栽培。県下一の出荷量を誇るカーネーション、人気の金魚草など、町の農産出荷量の1/3ほどを花き栽培が占めています。「花咲く町」と呼ばれるのも納得いただけるでしょう。



(上) カーネーション (下) 花菖蒲



高く噴き上がった温泉。歓声が上がる。正木さんの顔もほころぶ。「温泉って、生き物ですよ。季節や日により、機嫌が違う。ホントのところは、わからない」といって笑う。ここでは、毎分1000リットルの源泉を旅館、家庭に供給。「心からの癒しを感じてほしい」。温泉のようにあたたかな顔でまた笑った。

峰噴湯の管理人
正木 孝志さん

湧泉河津



「伊豆はどこをとっても「絵」になる。風景の画廊だと川端康成も表現しています」土屋さんの静かな口調が山に溶け込む。天城の山が水を貯え、豊富な流れとなって七滝をつくる。「魅力は尽きない、私は周辺環境の案内役として新しいツーリズムを追求していきます」。大切な山を水を、守り育てる一人です。

天城七滝を知り尽くしたガイド
土屋光示さん



初景滝

水にまつわる、河津町の魅力といえは、何といつても温泉。「温泉を活かした日本の町づくり」をめざす河津町は、七滝温泉、大滝温泉、湯ヶ野温泉、峰温泉、谷津温泉、河津浜温泉、今井浜温泉の7つのそれぞれ特徴ある温泉郷を抱えています。伝説をひも解けば、奈良時代に行者が温泉を開いたとも言われますが、峰温泉が開かれたのは大正15年。ここに住む稲葉時太郎が田んぼの水があたたかいのに気づいたのが始まり。私財を投げ打って、4年掛かりで掘りあてました。「峰の大噴湯では、木のやぐらをはるかに越える高さ約30メートルまで、

ここは、豊かな水の里。清流と温泉が、心をきれいに洗います。



蛇滝



大滝を望む露天風呂

ふるさとの温もりを感じる叙情深い温泉、自然の景観を生かした趣きある露天温泉、家族が楽しめるリゾート感いっぱいの温泉、そして誰もが心癒される日帰り温泉。多彩な温泉を味わえるのも、河津温泉郷ならではの、ゆっくり、ゆったり湯舟につかり、心とカラダをリラックスさせませんか。

約100度の源泉を噴き上げるのを見てとれます。「地球のエネルギーと時太郎の思いの強さを感じていただけるでしょう。」



踊り子温泉会館の露天風呂



峰大噴湯

が連なり、その下流は鮎が群れ、ズガニの遊ぶ河津川となつてゆるやかに流れていきます。天城山系に端を発する清水は、山を潤

し、動植物を育て、ここに住む人の生活に大きな恵みをもたらしています。

山からの清冽な水の流れる田のなかに、無数のわさび。「年間、どれほど出荷してるのか。数えたことないな」と稲葉さん。3代続くわさび栽培、自身はここ10年ほどの取り組みだとか。「まわりの農家の皆さんに教えてもらって。ホントに感謝です」。わさびの魅力は辛さではなく“香り”だと、言い切りました。

わさび田農家
稲葉競さん 由美子さん

山海河津

「息子?よくやってるよ」と1代目の貞夫さん。「とても、まだまだ。親父にたちうちできません」と2代目の行久さん。共同で漁を始めて20年。「海が好き、魚が好きじゃないと、この仕事はできない」ことは同意見です。「経験がものを言う、度胸もいる」。若手育成でも評判の、逞しい海のプロです。

漁師
飯田 貞夫さん 行久さん



河津浜より伊豆大島を望む

波のむこうに、遠く大島も望む河津の海。素晴らしい景色とたくさん恵みをもたらすこの海は、さらに多彩な魅力をたたえる豊穡の海としても知られます。夏シーズンには今井浜、河津浜の海水浴場には、朝早くから家族つれのにぎやかな歓声があふれます。今井浜ではサーファーに格好の波を、南のダイビングパーク菖蒲沢ではありのままの海の姿をダイバーに提供してくれます。そうした、観光・体験型のレジャーはもとより、この海は、古くから暮らしに根ざした資源の宝庫でもありました。定置網による漁業では、年間を通じアジ、サバを中心に漁獲。波おだやかな日の早朝、見高

恵みの海となごみの山。心を開放する、生き生きとした自然です。



宗太郎杉並木

森を歩けば、季節によりアマギシヤクナゲやアマギツツジの可憐な花に出会える。新緑の春も美しく、山が紅色と黄色に染まる秋



漁港風景

や谷津などの漁港では、帰港した漁船からのあわただしい水揚げ風景を見てとれるでしょう。観光に、海洋産業に、うつつけの条件を満たす海。河津を訪れたら、ぜひ、その一端にふれてください。



もまた見事です。自然のままの景観をみせる天城の山は、ハイキング愛好家にも愛される爽快感いっぱいの体感ロード。いくつも用意されたハイキングコースやセラピーロードの認定を受けた「鉢の山セラピーロード」で、心地よい森林浴と深呼吸を。



河津川の鮎釣り風景

天城の森が貯えた水は、清冽な流れとなって山を走り、河津川へ。河津町を語る上で欠かせない、清水に磨かれた香り高い名産わさびや解禁日には川に釣り人があふれる鮎も、偉大なこの山の恵みの一部と呼べるでしょう。

